

東京五輪

環境対策は不十分

都議会委員会 溫暖化防止強化求める

吉田議員

日本共産党的吉田信夫、東京都議は4日の都議会オリンピック・パラリンピック等特別委員会で、2020年東京五輪競技施設の環境対策が不十分であると指摘し、抜本改善を求めました。

施設の大会実施段階の環境影響評価書(アセスメント)案は、温室効果ガス(二酸化炭素 CO_2)の排出予測を、「類似施設」と比較

上競技場(ボート・カヌー)について、「温室効果ガスの推計量には、水門やポンプの稼働に伴う動力使用が入っていない」「排出量を計算した床面積の9割以上が屋外のスタンドと駐車場で、集会場との比較は不適切だ」とアセスメントの欠陥を指摘。これで「満足」という結論は出せない

吉田氏は、「環境影響評価が確定する前に、着工してはならない」と主張しました。吉田氏は、都の「東京オリンピック・パラリンピック環境ガイドライン」では、大会施設をつくっても CO_2 の排出量を増やすないことを基本目標としているにもかかわらず、都の対策は不十分だと指摘し、全面的・抜本的な環境対策の強化を求めました。

場外観光施設の運営業者決まる



委員会で質問する
吉田信夫都議(4)
日、東京都議会

上競技場(ボート・カヌー)について、「温室

のではないかと迫りました。

都オリンピック準備局の花井徹夫・施設輸送担当部長は、水門やポンプの運用計画が明らかになっていないので、今回の評価書案では予測・評価の対象としていないとし、「今後、改めて予測を行う」と答弁。吉田氏は、「環境影